

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 2月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	0172901670		
法人名	有限会社 ツインクルサポート		
事業所名	グループホーム かがやき		
所在地	旭川市末広5条2丁目4番1号 (電話) 0166-55-6606		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年2月7日	評価確定日	平成21年3月25日

【情報提供票より】 (21年1月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 13 人, 非常勤 8人, 常勤換算 13人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費 12,000円 衛生費 6,000円 暖房費(10～4月) 8,000円
敷金	有 () 円	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有 () 円	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要 (1月21日現在)

利用者人数	17 名	男性 1 名	女性 16 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.5 歳	最低 73 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団博彰会佐野病院、医療法人社団並木通りクリニック、医療法人社団啓成三戸歯科医院、医療法人社団細野歯科クリニック
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

落ち着いたある住宅街の中で、近くに商店やスーパー、小学校などがあり、普通の生活が実感できる環境が整っており、ホーム全体が明るく、衛生管理が行き届いた家庭的なホームとなっている。道路を挟んだ向かいに介護付き有料老人ホームが建てられており、連携をとりながら運営されている。日々の身だしなみに配慮し、女性の利用者には、お化粧の支援が行なわれ、おしゃれをしている利用者には「素敵よ」などの言葉が聞かれ、利用者の表情も明るく職員との会話やスキンシップも多く、和やかな雰囲気生活されている。職員は三つの部門(行事、リハビリ、新聞)に所属し、様々な企画を担当し、利用者の心に寄り添いながら、その人らしく、より豊かな生活の構築を目指し、ケアの実践に取り組み、サービスの向上に結実するよう日夜努力されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で指摘された避難訓練時の地域住民の参加については、運営推進会議を通じ協力要請し、本年度の訓練時は近隣住民の参加協力をいただき行なわれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員が自己評価に係わり、職員の率直な意見表出がなされ、気づきやケアの振り返りを行ないながら、全体で取りまとめている。自己評価・外部評価における評価一連の過程を通じて質の確保に活かしており、サービス向上を目指す前向きな姿勢が伺える。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的な運営推進会議が開催され、運営状況や活動報告、地域の協力事項や災害時の協力依頼など様々な事案を議題として、町内会長・婦人部代表・民生委員・社協職員・家族などから積極的に質問や意見、評価を受けサービスの質の向上に活かされている。避難訓練時には、地域住民の参加を呼びかけ、協力を頂き実施しており、地域の理解と協力体制が構築されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日頃から家族との交流を図り、気軽に意見・要望を話せるような雰囲気作りに努めている。意見や要望が出た際には、迅速に話し合いがもたれケアに反映させている。家族会を設置しており、意見や苦情、要望等を表せる機会や勉強会を行なうなど、家族と協働したサービスの向上に努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域の行事(玉入れや盆踊りなど)に職員や利用者と共に参加している。ホームの夏祭り際には、広く地域住民に呼び掛けるなど、地域との関係作りに積極的に取り組んでいる。また、うさぎや小鳥を見に子供たちが気楽に立ち寄り、散歩時に声をかけていただくなど、自然な形で地域の人達と顔馴染みとなっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関係性を重視したホーム独自の理念をつくりあげている。理念がホームの見やすいところに明示され、職員全員に浸透し、地域密着型サービスの具現化に向けて取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、ミーティングや日々の申し送りなどを通して職員と共有し、理念を認識しながら、利用者への支援に努めるよう日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の行事（玉入れや盆踊りなど）に職員や利用者と共に参加している。ホームの夏祭り際には、広く地域住民に呼び掛けるなど、地域との関係作りに積極的に取り組んでいる。また、うさぎや小鳥を見に子供たちが気楽に立ち寄りたり、散歩時に声をかけていただくなど、自然な形で地域の人達と顔馴染みとなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価で指摘された避難訓練時の地域住民の参加については、運営推進会議を通じ協力要請し、昨年10月の避難訓練時は近隣住民の参加協力をいただき行なわれている。本年度の自己評価も職員全員で取り組み、ケアの振り返りや気づきなど話し合わせ、日々のケアに組み込まれている。		

旭川市 グループホーム かがやき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議が開催され、運営状況や活動報告、地域の協力事項や災害時の協力依頼など様々な事案を議題として、参加メンバーから意見・提案等が交わされ、サービス向上に活かされている。評価結果は会議で報告され、改善に繋げている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長および管理者は、市担当者に各種相談や情報収集を行っており、また市や地域包括支援センターが開催する研修会や会議などに参加している。「SOSやまびこ」ネットワークの活動などにも協働している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	新聞委員会にて年5回、季刊誌「ブライトつうしん」を作成し、行事の際や日頃の利用者の様子の写真を多数掲載し、生活の様子、職員の情報などが報告され家族に喜ばれている。金銭出納簿は毎月家族に明細を明らかにし、家族の了解をいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族との交流を図り、気軽に意見・要望を話せるような雰囲気作りに努めている。意見や要望が出た際には、迅速に話し合いがもたれケアに反映させている。家族との協働を重視し、家族会での勉強会等も行なわれサービスの向上に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設長は、利用者との馴染みの関係を継続することを大切にしており、職員の異動は最小限に抑えるよう努めているが、運営法人の新規事業に伴い、職員数名の異動があった。両ユニット合同の活動を通じ、日々の暮らしの中で、職員全員が利用者との馴染みの関係性を保ち、職員交代に際して、影響が緩和されるよう配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成の重要性を認識し、資格取得の支援や外部研修費用等をホーム負担としている。職員一人ひとりの知識や経験に応じた外部研修に交替で参加し、職員間での共有化も図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長および管理者は、管理者会議や関連会議に積極的に参加し、ほかのグループホーム関係者と接触しながら、情報収集や意見交換を行なっている。同業者との交流や事例検討などを行ない、また、ほかのホームからの研修や見学等も受け入れるなど、協働しながらケアの質の向上に積極的に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム見学のほか、2泊3日程度の体験入居が可能であり、相談から利用に至るまで、利用者や家族の視点に立ち柔軟な対応を実施している。また、職員が利用希望者の自宅や病院などに出向き、利用者の求めていることや家族の話を聴き、利用者や家族が安心して納得できるよう、適切なサービス開始の調整を行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの経験や得意なこと、苦手なことを見極め、能力が発揮できるよう支援が行なわれている。職員は利用者と共に過ごす中で、年長者から学ぶ姿勢を保持し、生活の知恵や知識に触れる場面作りを行ない、協働作業や会話を通して感謝の意や尊敬の念を表わしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から生活歴や環境、家族構成など詳細に情報を聴くとともに、職員は、利用者の意向や悩み、思いをじっくりと聴き、利用者がどのように暮らしたいか、過去の生活歴や生活記録を照らし合わせ、利用者本位の検討を行なっている。希望の表出が困難な場合には、行動やしぐさ、表情等による訴えを見極め、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員が毎日の記録を基にカンファレンスを行ない、状況把握に係わるなかで、ニーズの把握に努め、日常のケアに活かせる取り組みが行なわれている。家族の要望を取り入れ、職員が意見を出し合いながら、介護サービス計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しが行なわれ、カンファレンス、モニタリングを通して、利用者の状況確認、評価を行ない、状態変化が見られた時には、現状に合った見直しが実施されているが、日々の記録は経過が主とした記載となっている。	○	日々の記録は介護計画の目標に基づいた実践を行ない、その評価（結果、気づき、様子など）が日常的に記載された記録となるよう期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算体制の指定を受け、日常的な健康管理に努めている。また利用者の希望や家族の状況に応じて、受診の支援や美容院や買物、自宅への送迎など、ホームで行なえる多機能性を柔軟に活かした支援が行なわれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医への受診となっている。家族同行の受診を可能な範囲で依頼し、不可能な場合は職員が同行している。医師への的確な情報伝達に留意し、適切な医療が受けられるための支援に努めている。看護師が勤務しており、利用者、家族、職員は健康面についても気軽に相談することができる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等並びにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・看取りに関する指針書を整備し、ホームの対応指針について明文化している。入居時に家族、利用者の方針の説明を行ない、同意をいただいている。利用者の状況変化に応じて、家族、医療関係者と話し合い、段階的な合意を重ねながら、方針の共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りや羞恥心に配慮しながら、日々のケアを行なっている。書類や個人記録などの管理に配慮されている。面会簿は、家族の意向もあり、来訪者が順次記入する様式となっている。	○	対人サービスに携わるホームとして、情報の漏洩防止は責務であるため、家族等の理解をいただきながら、面会簿の様式の工夫を期待したい。個人の写真や記名などの使用について、利用者及び家族の同意書として明文化されることを期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての1日の基本的な流れや生活リズムへの配慮がされている。職員も起床時間、入浴、食事、各種楽しみごとなど押しつけることなく、利用者の希望に沿うように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は職員がともに食事を取りながら話しかけたり、食事摂取の補助をしながら、利用者のペースに合わせた支援を行なっている。利用者の希望や季節感のある食材を用いた献立を作るよう努めている。食事準備や後片付けなど、利用者一人ひとりの得意分野や意向に配慮し、職員のサポートで一緒に行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴日が決まっており、交代で入浴しているが、決められた日時以外でも希望があれば入浴でき、利用者一人ひとりの習慣やペースで入浴ができるよう対応されている。入浴時の会話も大切なコミュニケーションと捉えて、気持ちの良い入浴を支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	両ユニット合同で行われるレクリエーションに意欲的に参加いただくため「参加カード」を用意し、楽しみや達成感に配慮し支援をしている。家事など暮らしの中での役割や趣味のサポート、外出での気晴らし、リハビリメークも取り入れ、利用者の視点に立ち、豊かな生活支援に積極的に取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物、ホームの庭での外気浴、また地域の行事に出掛けたり、外出行事（初詣、サクランボ狩り、紅葉狩りなど）を取り入れ、五感刺激の機会とし、喜びや楽しみに繋がるよう、出先での人々との交流も図りながら、外出支援を行なっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかけない安全な暮らしについて理解しており、日中は施錠していない。職員は外出傾向のある利用者を把握しており、外出する様子の時には、さりげない声かけや見守りが行なわれている。		

旭川市 グループホーム かがやき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害発生時に協力をいただけるよう、運営推進会議を通し働きかけが行なわれ、地域住民の参加・協力がいただけている。消防署の協力をいただいている。定期的な災害訓練が実施され、夜間帯を想定した防災訓練も行ない不測に備えている。ホーム内にAEDを設置し、AEDの使用法や救急救命などの実践的な研修も行なっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格を持つ職員がおり、栄養バランス等に配慮しながら、利用者一人ひとりの嗜好や状態に応じた調理方法も工夫がされている。利用者の体調を考慮された水分摂取も把握され、毎日の支援が行なわれている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は季節を感じる事の出来る飾り付けが行なわれ、清潔でゆったりしており、利用者が居心地良く過ごせる空間となっている。リビングの大きな窓からは、地域の生活や「えさをついばむ小鳥」の姿が見られるなど、季節感も感じられる。温度・湿度の配慮もされており、気になる臭いもなく、音・光等も適宜調節されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の意向や家族の協力のもと、一人ひとりに応じた生活しやすい環境を整えている。利用者が使い慣れた馴染みの家具や装飾品、利用者によっては仏壇などが持ち込まれ、家庭の延長的雰囲気の中で、安心して暮らせる場所となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。